

実践報告

札幌市立福井野小学校

(1) 研究内容

研究課題：「人権教育を基盤とした学校づくりに関する研究」

- 学校生活で生じる身近な問題から「人権教育」に視点を広げ、人権意識を教育活動全般に波及させていくことを目指す。(昨年度より継続)

(2) 実践の内容

【実践①】電話事業者による「スマホ・ケータイ安全教室」について

○ ねらい

- ・スマホやケータイの使用で起こる身近なトラブルを事例に、人権の基盤となる事柄を学び、意識を高める。
- ・人と人との良好な関係を基盤として「人権」を知る。

○ 学習内容

- ・ケータイやインターネットは正しく使うと実に便利なものだが、間違った使い方をすると友人関係にひびが入ったり「人権の侵害」になることにまで至る怖さを多角的に学んだ。
- ・これから本格的にユーザーとなる児童に、「仲間」とつながる楽しさとともに、人権を「守る」、「尊重する」意識を育てた。



【実践②】スクールカウンセラーによる『「ストレス」って何?』の授業(5年生)

○ ねらい

- ・人間関係を主因とする「ストレス」について知り、よりよい友達関係の構築に努めることができるようにする。

○ 学習内容

- ・クラスごとに学習。事前に Hyper-QU を実施し、スクールカウンセラーとデータを解析、現在の友達関係や学級の状況から、授業内容を決定した。ストレスが身体に及ぼす影響や、どのような要因がストレスとなるのかを、身近な具体例から考えた。
- ・授業日に「バレンタインデー」を選び、雰囲気盛り上げながら、活発な意見交換によって児童の意識を露わにしていた。(2/14 実施)



(3) 研究のまとめ

① 成果

- 昨年度の成果に基づき、日常生活の中で感じている漠然とした思いを、「人権」という視点から捉えていくことができた。
- 友達との関わりアンケート調査の中で、「もめ事が起きた時の対処法」の回答として、「自分たちの話合いで解決できた」を挙げる児童が増え、児童の意識の変化が見られた。
- 道徳のカリキュラムの見直しが進み、教職員の意識がそろい、同じ方向性で教育活動を営んでいく風土の醸成につながっている。月に一度の「全校道徳の日」を設定し、実践を重ねた。
- 外部講師の講座は「周到的準備」と「場数の慣れ」があり、ポイントを絞った軽快なテンポで学習が進んだ。教師にとっては分かりやすく楽しい授業作りの参考になった。

② 課題

- ややもすると、授業や学習活動のあとすぐに「効果」を期待してしまうが、尚早なゴール設定では当初の目的が達成されぬまま次の活動に移り、児童の興味や関心を削ぐ結果になってしまうことがあり、短時間・短期間で育つものと、長い目で見ていく必要があるものを見極め峻別していくことが重要であると考えます。
- 子どもが自主的に活動していける委員会や学級活動に取り組めなかった。多くの素材を提供できるよう、先進校などの情報を集めていく。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 本研究の柱は、「学校づくり」である。人権意識を子どもの実態に合わせてとらえ、高めることで、学校の教育活動全般に波及させていくことをねらっている。
- 児童とともに学ぶことによって、我々教職員の人権意識の高まりを同時に実感できる良さがある。特に、外部講師を招いての学習から得るものが大きい。
- 二年間の継続研究で得られた要素を生かし教育活動を進めることで、「いじめ」や「いのちの大切さ」、「人間の尊厳」といった最も重く重要なテーマについて、児童が本音を吐露していた。子どもが本気で考える人権教育を継続することで保護者や地域から愛され期待される学校づくりができると考え、今後も推進していきたい。